

平成21年度 第2回史跡小田原城跡調査・整備委員会会議録

日時 平成22年2月8日(月) 午後1時30分から午後4時10分まで
会場 小田原市生涯学習センターけやき 視聴覚室
出席者 小和田委員長、小笠原副委員長、池上委員、岡本委員、小出委員、斎藤委員、伊藤委員
神奈川県生涯学習文化財課 井澤主査
文化財建造物保存技術協会 春日井整備設計課長、辻田主任
事務局 和田理事・生涯学習部長、塚田文化財統括担当参事、吉田文化財担当主査、山口総構整備主幹・担当主査、諏訪間城跡整備主幹・担当主査、岩崎主事、曾根田主事

1 現地視察

(八幡山古郭東曲輪、馬出門、馬屋曲輪、小峯御鐘ノ台大堀切中堀、総構山ノ神堀切)

2 議題

(1) 報告事項

ア 馬屋曲輪の整備について

事務局 <馬屋曲輪の整備について概要を説明>
・現地視察時の説明も含め、現在行っている馬屋曲輪修景整備工事の進捗状況と今後の予定について、資料1の通り説明した。
・平成21年8月から工事を行っており、樹木伐採や発掘調査を行い、内法石垣を修復し、現在は櫓台石垣がもうすぐ積みあがる状況である。
・馬出門周辺に敷設したビリ砂利が流れるのを防ぎ、歩行者用通路を確保するために、砂利保護材を追加で敷設する。
・保勝会の石碑については、馬出門土橋周辺に設置する予定であったが、もっと北側に設置する。
・東側土塁上のツツジについては刈り込みを行うのみの予定であったが、石垣を明確に見せるために伐採し、転落防止用の駒寄の設置範囲を延長した。
・内法石垣の発掘調査の際に見つかった既存排水溝を利用し、内法石垣の整備と併せて、排水用の透水トレンチを加工した。
・雁木階段修復等は当初工事内容には含まれていなかったが、追加工事で今年度中に整備を行う。
・櫓台石垣・脇階段・内法石垣については、工事の進捗に伴い数量や位置を調整し、資料の通り変更した。
・来年度は、北村透谷の石碑の移転や馬屋跡・大腰掛跡・井戸跡の平面表示などを行う予定である。

副委員長 既設排水溝に加工した透水トレンチの強度はどのくらいあるのか。

事務局 30年程度は持つものである。径150mmの塩ビ管に穴を開けて、既設排水溝の中に設置し、中に発掘調査で現場から出た瓦を埋設した。

- 委員長 その瓦の年代は分かるのか。
- 事務局 全て抽出し、必要なものは取り上げ、それ以外の物を埋設した。時代としては寛永・寛文・元禄など様々な時代のものがあつた。
- 副委員長 平成22年度に行う曲輪内の地盤面整備の中では、園路は設置しないのか。
- 事務局 歩行者の安全性を図る必要はあるため、今年度敷設する砂利保護材の様子を見ながら、今後の施工段階で園路状に施工するか検討していく。
- 委員 馬出門の柱に犬が小便をしてしまっているようだが、それを防ぐことはできないのか。通常濡れることを想定していない場所であるため、菌が入ってしまうことや腐ってしまう可能性があり、保存に悪影響を与えてしまう。
- 事務局 何らかの対策を行う必要があると考えているが、手法については検討している。
- 委員 犬矢来などを用いてはどうか。駒寄せなど柵をするよりかは、その方がいいのではないか。
- 委員 土塁上に設置する駒寄せの高さはどのくらいか。
- 事務局 1.4mである。

イ 三の丸外郭新堀土塁（旧アジアセンター跡地）の整備について

- 事務局 <三の丸外郭新堀土塁の整備の概要について説明>
- ・今年度は整備基本計画を策定しているが、平成22年1月12日に資料2の内容で整備を考えているということを、文化庁と協議した。
 - ・現在策定している八幡山古郭・総構保存管理計画の中で、史跡散策ルートの拠点的な場所として位置付ける予定である。
 - ・小田原城全体の成り立ち等を学習する機能や資料展示を行うガイダンス施設の整備と併せ、埋蔵文化財の整理収蔵機能を複合させた施設の建設を検討している。
 - ・削られた土塁や堀を修復するなど、敷地全体の修景整備も行うよう検討している。また、土塁の位置などを確認するために、3月までの間に一部の試掘調査を行う予定である。
 - ・本来であれば史跡内への歴史的背景のない建物等の設置は認められないが、将来ガイダンス施設を建設する用地として平成19年度に文化庁と協議の上で取得した用地であるため、例外として認められるよう協議を行っている。
 - ・旧アジアセンターの建物で遺構はかなり削られているため、その削られた範囲を用いて、建物を建設するよう考えている。
 - ・建物については、屋上緑化して全体の高さを抑えるなど、史跡景観に配慮したものとし、全体で約2,000㎡を考えている。
 - ・史跡内に駐車場を設置することはできないため、内部には身障者や緊急車両用のスペースのみを設け、隣接地にある現在競輪の駐車場として利用されている場所の活用を検討している。

- 副委員長 旧アジアセンターの建物で遺構が壊されている広さはどのくらいか。また、隣接地の競輪の駐車場は、今後の管理はどのようになるのか。
- 事務局 遺構が壊されている範囲は約3,000㎡である。また、競輪の駐車場の使用については、まだ所管課との調整は行っていないので、今後計画策定を進める上で調整を進めていきたい。
- 副委員長 あの駐車場は大型バスも入ることができるため、是非ともガイダンス施設の駐車場として活用できるよう調整して欲しい。
- 委員 競輪駐車場は何台停める事ができるのか。また、観光客がこの場所にくるための交通手段は車しかないのか。
- 事務局 駐車可能台数は約50台である。ガイダンス施設が完成するまでには、他の史跡等の色々な場所を回る回遊バスを、年間を通じて回遊させることができるように、庁内の調整を行っていきたい。
- 委員 閑院宮邸はいつ頃あったのか。
- 事務局 明治30年代に小田原城に御用邸が作られたりした頃に、三の丸外郭から板橋にかけて大規模な土地を所有した。その後、別荘などとして用地を割譲していく中で、その一部をMRA財団に譲ったようである。
- 委員 この場所には、閑院宮の何か主要な施設があったのか。発掘調査をする際には、その時代のものも調査するのか。
- 主要な施設はこの場所より東側あったのが確認されている。敷地のほとんどは、土塁が一部残されている以外は、旧アジアセンターの建物等により破壊されている。今回の試掘調査は、旧地形が残されている可能性がある場所の地盤面の高さを確認するものである。近代の遺構に関しては、何かがあった場所ではないと考えられる。
- 委員 土塁が削られたのは閑院宮邸と関係があるのか。
- 事務局 発掘調査の事例がないので、今後の発掘調査で確認したい。
- 委員 宮内庁の資料部には、戦前の宮家の記録がほとんど残っているので、それを確認してはどうか。
- 事務局 そうさせていただく。
- 副委員長 収蔵施設はどのくらいの広さを作るつもりなのか。
- 事務局 ガイダンス施設を補うための収蔵施設という位置付けとするつもりであり、500～700㎡のものを作りたいと考えている。現在市内に点在している既存の収蔵施設に加え、それくらいの広さの収蔵施設が必要である。

ウ 御用米曲輪の整備について

- 事務局 <御用米曲輪の整備について説明>
- ・御用米曲輪のこれまでの経過について資料3の通り説明。
 - ・現在は平成22年3月までの期限で、臨時駐車場としての使用について現状変更許可を文化庁から受けているが、使用期限を平成23年3月まで1年間延伸するよう申請しているところである。
 - ・文化庁からは、延伸を認める代わりに、平成23年度から直ちに御用米曲輪の史跡整備を行うよう指導を受けている。
 - ・臨時駐車場としての使用を平成23年1月中旬に終了し、3月までに駐車場施設を撤去し、4月から史跡整備を行う予定である。
 - ・史跡整備としては観覧席等の撤去、土塁の修復・修景整備、地盤面の修景整備、米蔵の平面表示、樹木伐採などを考えている。また、平成22年度には、外周部の発掘調査、曲輪全体の測量調査、修景整備実施設計の策定を行う。
 - ・今後の本丸・二の丸整備としては、平成22年度で馬屋曲輪整備が完了し、平成23～25年度に御用米曲輪の整備を行う。その後、馬屋曲輪に戻り馬屋跡・大腰掛跡の整備を行う予定であるが、本丸広場に着手する可能性もある。
- 副委員長 御用米曲輪整備の最終形のイメージはあるのか。
- 事務局 整備基本構想図の通りである。しかし、土塁上のクスノキ約40本をどう扱うのか、土塁の修復をどの程度まで復元できるかが課題である。御用米曲輪については立体的な表示は行わずに、面としての整備を考えている。平成22年度に実施設計を策定する予定であるので、具体的にはその中で検討することとなる。
- 副委員長 先日、植栽管理計画の策定に向けた現地調査を行ったが、クスノキについては土塁を整備するために伐採をするべきである。また、土塁の形状については、発掘調査で根拠となる成果はある程度得られるのではないかと。
- 事務局 北西側は土塁が大きく削られているし、西側通路部分についても大きく改変を受けている。削られてしまった土塁の高さは、発掘調査で分からないため検討が必要である。
- 委員長 観覧席は土塁を用いているため、ただ撤去するのではなく土塁の復元を見越した解体を行うべきである。
- 事務局 観覧席を撤去すると土塁の断面が出ることになるため、そこを撤去しながら調査していくようなやり方になると考えられる。
- 委員長 昭和57・58年に行った発掘調査では土塁上も調査しなかったのか。
- 事務局 土塁上にも5箇所ほど小規模なトレンチを入れて調査を行っており、ある程度の様子は分かっているが、土塁の裾の部分などのポイントとなる部分までは分かっていないため、そこを今回調査していく。
- 副委員長 大蓮寺の工事は、平成22年度中に完了するのか。

事務局 小田原駅周辺の駐車場全体の状況としては、民間の駐車場も含めるとある程度余裕があるため、大蓮寺の工事期間が延びたとしても、御用米曲輪は臨時駐車場を閉鎖し史跡整備には着手することとなる。

副委員長 もし駅前再開発事業が始まると、また駅周辺の駐車場事情も変わってくると考えられるがどうか。

事務局 庁内で検討を重ね、御用米曲輪については史跡整備に着手をするという考えでオーソライズされているため、平成22年度で臨時駐車場は閉鎖することとなる。

委員 曲輪内部の発掘調査はもう行わないのか。

事務局 昭和57・58年に行われた発掘調査で、全面ではないが幅1mのトレンチを5m間隔で中世の面まで調査しているため、遺構の変遷や成り立ちはある程度分かっている。

委員 その当時の調査成果によって表面表示を行わないのか。

事務局 最終遺構面で整備を行うという原則から、今後の整備で米蔵跡3棟を平面表示する予定である。

この場所は谷を埋めていて4m下まで戦国期の遺構が残っており、小田原城の中でも最も濃密な遺構の変遷が終える場所であり、そこまでの調査については一部に留めるつもりである。

委員 江戸時代の絵図によると、もっと多くの米蔵があったのではないのか。

事務局 曲輪内部には3棟、土塁上に2棟、最大で5棟であったと考えられる。

エ 八幡山古郭・総構保存管理計画について

事務局 <八幡山古郭・総構保存管理計画について説明>

- ・昨年9月の当委員会でも報告をしたが、3月に計画が策定されることとなり、現段階での案としては、資料4の通りである。
- ・遺構周辺を「遺構保全域」、その周辺を「景観保全域」とし、その2つを併せて「城郭環境保全域」として位置付けた。
- ・今後は2月に専門部会で最終調整を行い、3月の全体委員会を経て計画策定となる予定である。

委員 小田原城のような広大な範囲の保存管理計画を策定を行っている事例は、他にあるのか。

委員 ほとんど民家がないような場所での事例はあるが、これだけ近代の建物等がある中で保存管理計画は、小田原くらいであろう。

事務局 近年、金沢でも保存管理計画策定を行っているようである。

3 その他

- ・事務局から報告

史跡小田原城跡本丸・二の丸植栽管理計画については、3月の計画策定に向けて検討を重ねている段階であり、今回の委員会では報告することができなかったが、次回の委員会では報告をさせていただきたい。計画策定と並行して、大手筋を中心に支障となる樹木は順次伐採等を行っていく。